

国連持続可能な開発のための ハイレベル政治フォーラム2016に参加して



2016年8月31日（水）

動く→動かす/セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 堀江由美子

「誰一人取り残さない」は、実現可能か？

『「誰一人取り残さない」は、全員が何度も連呼したところで、
実現するものではない』

－HLPF初日の国連ウィメン（UN Women）の代表者の発言より

「誰一人取り残さない」

「（格差是正への取り組みには）細分化されたデータが必要」

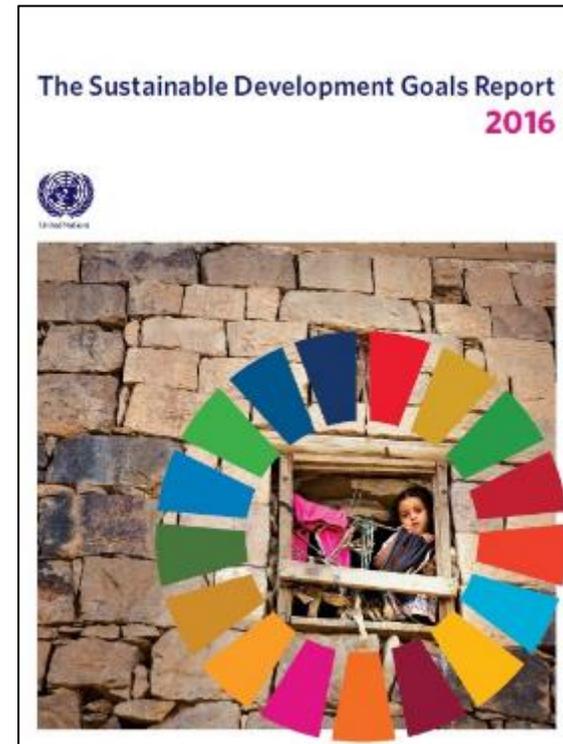
「マルチステークホルダーによる連携が重要」

繰り返し唱えられてはいるが...



ハイレベル政治フォーラムの限界？

- HLPFは、リオ+20（2012）でCommission on Sustainable Developmentに代わるグローバルなフォーラムとして設立決定－画期的な役割は持たせられなかった
 - SDGs実施における様々な経験を共有し、進捗を確認・推進する場としてプロセスの中心に位置づけられたが、フォーラム自体は何も決定権を持たない
 - フォローアップ&レビューは、拘束力はない（SDGs策定プロセスにおいてセンシティブなテーマ）
 - SDGs Progress Reportは、グローバル・レベルでの集約のみ
 - 成果文書（閣僚宣言）は、2030アジェンダの文言の繰り返し
 - HLPFのモダリティ・役割を規定する「フォローアップ&レビューに関する決議文」は、HLPF後の7月29日によりやく採択
- まだ「トライアル・フェーズ」であり、今後どのような成果がもたらせるかは未知数



「フォローアップ&レビューに関する決議文」で決定されたHLPFのテーマ

- **2016** : 「誰一人取り残さないために」
目標 : 全て
- **2017** : 「貧困の解消と変化する世界における繁栄の促進」
目標 : 1,2,3,5,9,14
- **2018** : 「持続可能でレジリエントな社会への変革」
目標 : 6,7,11,12,15
- **2019** : 「人々のエンパワーメントと包摂性・平等性の確保」
目標 : 4,8,10,13,16

- 4年を1サイクルとして、4年に1度は各目標をレビュー
- 実施手段は目標17と共に毎年レビュー

ナショナル・ボランティア・レビュー (National Voluntary Review)

- 拘束力はなく、あくまでも「ボランティア」なレポート提出 – ピア・プレッシャーがかかることへの期待
- 2016年のボランティア・レビューに手を上げたのは：
エジプト、中国、ドイツ、エストニア、フィンランド、フランス、グルジア、コロンビア、韓国、マダガスカル、モロッコ、メキシコ、モンテネグロ、ノルウェー、フィリピン、サモア、スイス、シエラレオネ、トーゴ、トルコ、ウガンダ、ベネズエラ
- 決められた枠組みはなく、自己批判よりも自己称賛や現状と乖離した報告が目立つ
- NGO/市民社会によるカウンター・レポート



日本の市民社会に求められる関与と連携

HLPFは、市民社会の連携の幅を広げ、ネットワークを拡大し、SDG実施に向けた政府へのプレッシャーを高める機会として活用することが必要

- 国際レベル、地域レベル、国レベルの連携と共有
- 政府へのSDGs実施とモニタリングの圧力
⇒ナショナル・ボランタリー・レビューへの参加の働きかけ
- 市民社会の視点からのモニタリングと進捗報告の作成、発信

ありがとうございました